

豊後大野市千歳町在住で、精神障害のある軸丸義弘さん(45)は色鉛筆を使った似顔絵の創作活動に取り組んでいる。佐伯市内で初めての個展を開き、これまで描きためてきた作品を展示。モデルとなった高齢男性に似顔絵をプレゼントした。

精神障害のある軸丸さん 豊後大野市 創作依頼きっかけに個展

写真は佐伯市で開かれた個展で、モデルとなった木許芳信さん(右)に夫婦の似顔絵を手渡す軸丸義弘さん



優しさを伝える似顔絵30枚

「これからもこつこつと」

軸丸さんは通所する福祉施設(千歳町)の施設長の勧めで、3年ほど前から絵を描き始めた。元々、子どもの頃から絵が得意だったこともあり、色鉛筆で好きな芸能人の写真を基に似顔絵を描いてきた。趣味の一環として地道に作品を増やしてきたが、施設内で「絵がうまい」と評判となり、利用者の似顔絵を頼まれるようになった。

個展は1月中旬、認知症の人や家族が集うオレシカカフェさいきに合わせ、佐伯市内町の「よろうや仲町」で開かれた。軸丸さんが通院する市内の病院の主治医が、カフェに通う高齢夫婦の似顔絵を頼んだことがきっかけ。夫婦の似顔絵が完成したのに合わせて、これまで描いてきた30枚を展示した。芸能人や世界の名画を題材にしたイラストを見た来場者は「どれも人の優しさが表現されていて、ほっとする」と話した。

(守屋茉冬)